

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地																														
福岡ECO動物海洋専門学校		平成16年2月23日	谷川 浩史	〒 812-0033 (住所) 福岡県福岡市博多区大博町4-16 (電話) 092-262-2177																														
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地																														
学校法人滋慶学園		昭和58年12月23日	浮舟 邦彦	〒 134-0084 (住所) 東京都江戸川区東葛西6-16-2 (電話) 03-5878-3311, 03-6808-3201																														
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																													
文化・教養	文化・教養専門課程	エコ・コミュニケーション科(ドッグトレーナー専攻)	平成17(2005)年度	-	平成26(2014)年度																													
学科の目的	「職業人教育を通して社会に貢献していく」ことを使命とし、動物・海洋・自然の仕事を通して、人に喜びと感動を与え、動物業界での即戦力となる人材を養成する。																																	
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格等)	主な教育内容: 家庭犬、警察犬、補助犬など様々な分野のドッグトレーニングを学ぶ。 取得可能な資格: 愛玩動物飼養管理士2級・優良家庭犬普及協会マナーハンドラーテスト・ECOアニマルコーディネーター検定 ・JESC認定コミュニケーションスキルアップ検定																																	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																											
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,800 単位時間	630 単位時間	3,300 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間																										
			— 単位	— 単位	— 単位	— 単位	— 単位	— 単位																										
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率																														
40 人の内数	18 人	0 人	0 %	3.0 %																														
就職等の状況	<table border="1"> <tr><td>■卒業生数(C)</td><td>17</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>16</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>15</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>3</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>94</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>20</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>88</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>(令和 6年度卒業生に関する令和7年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 犬訓練所、ペットショップ、他</p>						■卒業生数(C)	17	人	■就職希望者数(D)	16	人	■就職者数(E)	15	人	■地元就職者数(F)	3	人	■就職率(E/D)	94	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	20	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	88	%	■進学者数	0	人	■その他			
■卒業生数(C)	17	人																																
■就職希望者数(D)	16	人																																
■就職者数(E)	15	人																																
■地元就職者数(F)	3	人																																
■就職率(E/D)	94	%																																
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	20	%																																
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	88	%																																
■進学者数	0	人																																
■その他																																		
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL</p>																																	
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.eco.ac.jp">https://www.eco.ac.jp</a>																																	
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>3,930 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>2,085 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>1,860 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>855 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>180 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総単位数</td><td>— 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数</td><td>— 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の単位数</td><td>— 単位</td></tr> <tr><td>うち必修単位数</td><td>— 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数</td><td>— 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の単位数</td><td>— 単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)</td><td>— 単位</td></tr> </table>						総授業時数	3,930 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	2,085 単位時間	うち必修授業時数	1,860 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	855 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	180 単位時間	総単位数	— 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	— 単位	うち企業等と連携した演習の単位数	— 単位	うち必修単位数	— 単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	— 単位	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	— 単位	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	— 単位
総授業時数	3,930 単位時間																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																	
うち企業等と連携した演習の授業時数	2,085 単位時間																																	
うち必修授業時数	1,860 単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	855 単位時間																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	180 単位時間																																	
総単位数	— 単位																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	— 単位																																	
うち企業等と連携した演習の単位数	— 単位																																	
うち必修単位数	— 単位																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	— 単位																																	
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	— 単位																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	— 単位																																	
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>1 人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1 人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>0 人</p>						① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0 人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1 人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0 人	計	1 人																
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0 人																																	
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1 人																																	
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人																																	
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人																																	
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0 人																																	
計	1 人																																	

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針  
教育課程編成委員会においては、非常勤講師以外の業界関係者からの意見を、より詳細に教育内容に反映させることを基本方針とし、次のような取り組みを行っている。企業との連携について、学科の養成目的(学生が卒業時に身につけておくべき能力)実現に向け、学校の教職員と業界で活躍している兼任教員(非常勤講師)が、授業科目の開設や授業内容の改善を図るため、年2回の講師会議を開催している。また、学生の卒業年次においては、非常勤講師以外の業界関係者も招聘し、学生の卒業研究内容を評価してもらい取り組みもっている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程については、学校関係者評価委員会の意見も踏まえ、毎年5月に開催する教育課程編成委員会において改訂内容を審議し、その内容を踏まえ年末までに学校長が来年度の教育課程の編成方針を決定する。この方針に基づき、教務部長が中心となり、この編成方針を教職員、講師の先生方にも徹底し、各教科のシラバスを作成している。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
佐藤 良治	(株)福岡動物医療センターグループ	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	③
岩田 知彦	(株)海の中道海洋生態科学館	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	②
坂本 恵理	株式会社コミュニティサービス	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	③
山本 雅一	合同会社ZOO CARAVAN	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	③
山口 響	株式会社AHB	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	③
増山 崇	ひばるペットクリニック	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	①
妹尾 大輔	カミハタ養魚グループ／神畑養魚株式会社	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	③
谷川 浩史	福岡ECO動物海洋専門学校	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	—
満原 翔一	福岡ECO動物海洋専門学校	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	—
村上 弘志	福岡ECO動物海洋専門学校	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	—
林田 新太郎	福岡ECO動物海洋専門学校	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(5月、1月)

(開催日時(実績))

第1回 令和7年5月14日 15:10～16:00

第2回 令和8年1月中旬 実施予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

ドッグトレーナーを目指すにあたり、トレーニング技術はもちろんであるが、これからは法令順守をより一層必要とされる。改正などもされるため、その点においては在学中から動物関連法規を引き続き指導して欲しい。また、専門知識・技術だけでなく幅広い教養と社会人基礎力を持った人材を育成をして欲しい。現場とのギャップを感じ離職に繋がるケースもあり、インターンシップなどの業界研修を活用して顧客との関りや、仕事として犬と関わっていくことを学び活躍出来る人材を求めている。これらを踏まえ、オンデマンド教材として動物法規の作成、見直しが出来る環境を整え、業界研修については年間を通して実施できるよう学生に周知している。また、人間力向上の為に「企業プロジェクト」の授業においてドッグラン運営を学生が担い、一般の飼い主様との関わりを学びと同時にイベントの運営、集客などについても実施している。さらに特別講義などを適宜設け、専門性と人間力の向上に取り組んでいく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係			
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 本校は、即戦力としての職業人教育を行う為、業界と連携し、専門知識・技術、並びに人間力を持ち合わせた人材の育成に取り組んでおり、特に演習科目においては、現場の第一線で活躍するプロに非常勤講師を依頼するなど、授業内容を業界関係者と共に企画立案・実施し、達成度評価を行うことを基本方針とする。			
(2)実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記 連携企業等と講師業務委託契約を交わした上で、現場の第一線のプロが非常勤講師として授業を行っている。学校と非常勤講師が協議して作成したシラバスを基に授業は進行され、成績評価は毎授業での到達目標達成度及び学期ごとに行う定期試験の結果をもって総合的に評価される。また、担当非常勤講師と学科専任教員は常に連携を密にし、情報を共有しながら授業運営に係る問題解決や授業改善に協力して取り組んでいる。更に、業界研修等を実施し、企業等の指導担当者の下、現場体験を深め即戦力としての更なる知識・技術の習得に努めている。研修実施前の協議を徹底すると共に、教員による研修先の訪問を通して指導担当者と教員の連携・情報共有を図り、協力体制を強化して教育効果の向上に努めている。			
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。			
科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
ドッグトレーニング演習Ⅰ	1.【校内】企業等からの講師が全て授業を主担当	JKCの訓練課目を学内犬と共に実践し、犬に対する基本的な指示出しができるようになる。	ランランふい〜んど
ドッグトレーニング演習Ⅱ	1.【校内】企業等からの講師が全て授業を主担当	犬の学習プロセスを理解しつつ、犬に対して優しい正の強化を応用したトレーニングを実践できるようになる。	Wan Life
犬の行動学	1.【校内】企業等からの講師が全て授業を主担当	犬の身体的特徴やコミュニケーション方法、行動から、生物分類上の「犬」を説明できるようになる。	Hand in Paw
犬との暮らし方教室	1.【校内】企業等からの講師が全て授業を主担当	一般の飼い主から愛犬を預かり、「伝える」力を習得し、トレーニングや飼い主へのアドバイスができるようになる。	犬の学校 SMILE DOG
ドッグスポーツ演習Ⅰ	1.【校内】企業等からの講師が全て授業を主担当	プロから一般の愛犬家まで幅広い人気を誇るアジリティを通し、犬との関係構築を実践できるようになる。	JUMP DOG
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係			
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 学園の定める教職員規定において、専門技術・知識の向上、授業内容・教育技法の改善、クラス運営力の向上、マネジメント能力や指導力の向上などを研修の目的として、職歴や能力・経験、職責、担当業務に合わせて、定期的・継続的に業界と連携して研修を実施している。企業・業界団体等が開催する研修会や講師をお招きしての講習会、セミナーに専任教員を計画的に参加させ、業界の変化やニーズを的確に把握すると共に、最新の技術・知識の習得に努めている。			
(2)研修等の実績			
①専攻分野における実務に関する研修等			
研修名：	オーストラリアでの特殊訓練犬について	連携企業等：	ENPOWER ASSISTANCE DOGS
期間：	2024年7月22日	対象：	エコ・コミュニケーション科教員
内容	海外と日本のドッグトレーニングの違いや、考え方		
研修名：	シニア犬の魅力を新たに発信する方法	連携企業等：	大分動物愛護センター
期間：	2024年10月30日	対象：	エコ・コミュニケーション科教員
内容	シニア犬の譲渡会を新たな切り口で考え、広く発信する		
研修名：	動物福祉について	連携企業等：	Hand in Paw
期間：	2024年12月23日	対象：	全職員
内容	動物福祉の概念から、動物愛護について		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名：	FDマイクロレベル<クラスマネジメント>研修Ⅰ	連携企業等：	滋慶教育科学研究所
期間：	2024年5月24日	対象：	全学科教員
内容	滋慶学園における担任の「クラスマネジメント」の定義に共感しクラスマネジメントのポイントを理解し、「実行計画」の作成、修正が出来るようになる。ひとりで「クラス」をささえるのではなく、学生のセーフティーネットが構築できる。		
研修名：	FDマイクロレベル<クラスマネジメント>研修Ⅱ	連携企業等：	滋慶教育科学研究所
期間：	2024年7月24日	対象：	全学科教員
内容	滋慶学園における担任の「クラスマネジメント」の定義に共感、クラスマネジメントのポイントを理解し、「クラス」をひとりで支えることなく、学生のセーフティーネットの運用のため「実行計画」作成、実践、修正ができるようになる。		
研修名：	教職員カウンセリング研修	連携企業等：	滋慶教育科学研究所
期間：	2024年9月27日	対象：	全学科教員
内容	滋慶学園グループの全教職員がカウンセリングマインドを身につけ、学生や保護者に対応できるようにスキル向上を目指し資格を取得する。		

(3) 研修等の計画	
① 専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: オーストラリアでの特殊訓練犬について	連携企業等: ENPOWER ASSISTANCE DOGS
期間: 2025年6月22日	対象: エコ・コミュニケーション科教員
内容 海外と日本のドッグトレーニングの違いや、考え方	
研修名: PORTLを使った	連携企業等: Dolphin Boy Academy
期間: 2025年7月4日	対象: エコ・コミュニケーション科教員
内容 ゲーム感覚で学べるPORTLを使った行動原理を学ぶ	
研修名: 補助犬トレーニングについて	連携企業等: with わん
期間: 2025年11月頃	対象: エコ・コミュニケーション科教員
内容 補助犬のトレーニング方法と社会的意義	
② 指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: 教務勉強会(事例検討会)	連携企業等: 滋慶トータルサポートセンター
期間: 2025年3月26日、8月21日	対象: 全学科教員
内容 多様化している学生・生徒に対応することや、サポートが必要な学生に対し今後どのようにサポートしていけば良いか等、実際の事例報告を行い勉強会を実施。クラスマネジメント力の向上を目的とする。	
研修名: FDミドルレベル研修	連携企業等: 滋慶教育科学研究所
期間: 2025年7月24日	対象: 全学科教員
内容 FD研修の目的とその展開を理解し、自学科のスタッフの成長を促進出来る。カリキュラムマネジメントの基礎を学び、自学科のカリキュラム開発の課題発見が出来る。	
研修名: マネジメント研修	連携企業等: 滋慶教育科学研究所
期間: 2025年10月21日	対象: 全学科教員
内容 学校運営に関する必要な知識の習得並びに、姉妹校の成功事例を学ぶことで、新たな視点で自校の学校運営を考え、在校生・卒業生・教員・講師並びに動物業界にとって、より良い学校になるように反映させる。	
4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係	
(1) 学校関係者評価の基本方針	
自己点検・評価結果について学校職員以外の関係者による評価を行うため、学校関係者評価委員会を置き、年に1回以上委員会を開催する。評価委員会は、本校教職員が行った自己点検・自己評価の内容を審議・評価することを通じて、学校運営の改善に活かすことを目的とする。評価委員は、卒業生1名、保護者代表1名、近隣関係者1名、高校関係者1名並びに動物業界関係者6名の合計10名の委員定数で構成され、任期は1年である。毎年5月に開催している。	
(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生募集と受け入れ
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献
(11) 国際交流	海外提携校との交流
※(10)及び(11)については任意記載。	

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

(継続的な取り組み(これまでの学校評価を踏まえ継続的に実施している内容)

- ・学生の満足度を判断する材料の一つとして定期的に授業アンケートを実施し、その内容を踏まえ、講師会で伝え改善に努めている。また職員の研修を強化し授業づくり、クラス作りに繋げている。また必要に応じて授業アシスタントを配置しサポート体制を強化している。
- ・学生が心の悩み等で不登校や中途退学になり、修学を断念することが無いよう、学生相談窓口を徒歩3分の場所に設置し専属のカウンセラーを常駐し、心を支える取り組みをしている。
- ・卒後教育及び再就職サポートとして対面による面談のみならず、オンラインや電話を含む相談窓口を用意し実践している。

(昨年度の評価で指摘された事項で、留意して取り組んでいく事項)

- ・国家試験の合格率の向上に関して取り組まれているが、さらに授業面や学生サポートに関しても力を入れてほしい。
  - ・多様化している学生に対して、スタッフは対応が難しい部分もあるだろうが学生満足度向上のため、支援体制は継続してほしい。
  - ・犯罪から身を守る対策や事故や災害に対するの危機意識をしっかりと伝えてほしい。
  - ・具体的な評価をするために数値化したデータがほしい。
- などの多くの意見をいただいた。

これらの意見を踏まえ、各部門で改善できる内容については、事務局長・教務部長・各学科長で協議し、更に教務会議及び全体会議等でこれらの意見をスタッフ全員で共有し、具体的な対策を検討しその実現を図っている。

教育内容については、毎年5月ごろに開催する教育課程編成委員会に評価委員会の意見を示し、その審議を踏まえ、年末までに学校長が来年度の教育課程の編成方針を決定する。この方針に基づき、教務部長と学科長が中心となり、この編成方針を教職員、講師の先生方にも徹底し、各教科のシラバスを作成している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
佐藤 良治	(株)福岡動物医療センターグループ	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	業界委員
岩田 知彦	(株)海の中道海洋生態科学館	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	業界委員
坂本 恵理	株式会社コミュニティサービス	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	業界委員
山本 雅一	合同会社ZOO CARAVAN	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	業界委員
山口 響	株式会社AHB	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	業界委員
増山 崇	ひばるペットクリニック	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	業界委員
田中 飛翔	動物園・動物飼育3年 田中ひなた保護者	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	保護者
鵜澤 拓哉	エコ・コミュニケーション科 動物園公務員専攻 卒業	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	卒業生
戎崎 淳一	福岡市大浜公民館	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	近隣代表
末吉 薫	福岡県立嘉穂総合高等学校	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	高校関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他( )

URL: <https://www.eco.ac.jp/>

公表時期: 2025年7月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校が毎年定める事業計画の実行方針において提起された目標を具体化するために、動物業界の企業等からヒアリングを行い、動物業界の動きを踏まえた実行計画を作成しています。企業等への具体的な情報提供方法として、業界関係者である兼任教員と教職員との間で講師会議を開催し、授業科目編成や各科目のシラバス等を審議を行い、そこで出たご意見を反映させることを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の概要、事業計画、事業報告
(2)各学科等の教育	カリキュラム、学年歴、実習要項、シラバス
(3)教職員	教職員の氏名、略歴等の紹介
(4)キャリア教育・実践的職業教育	カリキュラム、学年歴、実習要項、シラバス
(5)様々な教育活動・教育環境	学校設備紹介等
(6)学生の生活支援	学校相談センターの案内、奨学金申込み案内等
(7)学生納付金・修学支援	授業料及びその他実習費
(8)学校の財務	事業計画、事業報告
(9)学校評価	自己点検、自己評価結果、学校関係者評価結果
(10)国際連携の状況	海外提携校との交流
(11)その他	社会貢献(地域社会と連携した行事)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL: <https://www.eco.ac.jp/>

公表時期: 2025年7月31日

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 エコ・コミュニケーション科 (ドッグトレーナー専攻))																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○			キャリアプランニングⅠ	キャリア教育の一環として、クラスメイト・担任とのコミュニケーションを図り、社会人となる心構えやホスピタリティを理解し、実践できるようになる。	1前後	60	4	○			○		○		
	○			キャリアプランニングⅡ	将来のキャリア設計を行うと共に、社会人として必要な社会常識や心構え・身構え・心構えなどを発揮できるようになる。	2前後	60	4	○			○		○		
	○			プレゼンテーションⅠ	人前で話ができるよう自己表現力（人前での話し方）を養い、考えを伝えることができるようになる。	1前後	60	4		○		○			○	
	○			プレゼンテーションⅡ	就職活動に必要な面接技法や自己PRの仕方、電話応対など、実践的な自己表現力を養い、発揮できるようになる。	2前後	60	4		○		○			○	
	○			コンピュータ演習	ワード・エクセル・パワーポイントなどの基本的な使い方を学び応用・作成ができるようになる。	1前後	60	4		○		○			○	
	○			デジタルコンテンツ演習	SNSやホームページ、映像などの作成・活用を学び、効果的な表現・発信をすることができる。	随時	30	2		○		○			○	○
	○			アニマルベシク	動物業界の仕事に携わるために必要な知識を学ぶ上で、その基礎となる細胞、遺伝子、体の機能を学び、説明できるようになる。	随時	15	1		○		○			○	
	○			動物の体のしくみ	犬を中心とした基本的な動物の体の構造骨格や生理的な知識を学び、説明ができるようになる。	随時	15	1		○		○			○	
	○			動物の健康管理	動物を飼育するための飼育管理方法や、病気やその予防法を学び説明できるようになる。	随時	15	1		○		○			○	
	○			動物行動論	動物の行動や、集団形成の意義、順位となわばりなど、動物行動の基本概念を理解し、説明できるようになる。	随時	60	4		○		○			○	○
	○			次世代のための環境教育	体験（参加型）学習の指導法理論（人の理解・自然と暮らし文化）に基づき、環境教育の基礎を学び、伝えることができるようになる。	随時	15	1		○		○			○	○
	○			アニマルヒストリー	民族や宗教、歴史等の観点から人と動物の関わりに関して考え説明できるようになる。	随時	30	2		○		○			○	
	○			犬の行動学	犬の身体的特徴やコミュニケーション方法、行動から、生物分類上の「犬」を説明できるようになる。	2前後	60	4		○		○			○	



30	○		繁殖と遺伝	犬と猫の生殖器官のしくみ、性周期・交配、出産のメカニズムを説明できるようになる。	随時	30	2	○		○							○	○	
31	○		ナチュラルケア	犬の心身共に健康な身体作りに必要なケアをホリスティックの観点から学び、考えることができるようになります。	随時	30	2	○		○								○	○
32	○		グルーミング概論	耳そうじ・爪切り・シャンプーなど、犬のお手入れの基本的な美容理論を説明できるようになる。	随時	30	2	○		○								○	○
33	○		グルーミング演習	犬の爪切りや耳掃除、シャンプー等、基本的なお手入れを実践できるようになる。	随時	60	4		○	○								○	○
34	○		人と動物との関係学	犬と人との関係性を、動物福祉や飼い主責任、ペットロスなど様々な観点から考えることができるようになる。	随時	30	2	○		○								○	○
35	○		動物の法律	動物の愛護および管理に関する法律を中心に、動物と暮らす上で知っておくべき法律を説明できるようになる。	随時	30	2	○		○								○	
36	○		ドッグスポーツ演習Ⅰ	アジリティ（ドッグスポーツ）の概要やルール、楽しさを理解し、競技とドッグトレーニングの関連性を理解し、実践できるようになる。	随時	15	1		○	○								○	○
37		○	ドッグスポーツ演習Ⅱ	プロから一般の愛犬家まで幅広い人気を誇るアジリティを通し、犬との関係構築を実践できるようになる。	随時	60	4		○	○								○	○
38	○		ディスクドッグ	ディスクドッグ（ドッグスポーツ）を通して、犬とのコミュニケーションやスポーツドッグ育成の基礎を身に付け実践できるようになる。	随時	30	2		○	○								○	
39	○		コンディショニング	実際にスポーツトレーナーからストレッチやトレーニングを学び、ドッグトレーナーとして健康な心身をつくる。	随時	30	2		○	○								○	
40	○		企業プロジェクト	企業より課題をいただき、プロジェクトを企画・運営まで実践できるようになる。	随時	150	10		○	○								○	○
41	○		進級課題	学んだ専門知識や技術の集大成として、学習成果が進級に値する実力を修得しているか課題に取り組み、課題の研究発表または実技の披露を行います。	1後	60	4		○	○								○	
42	○		卒業課題	入学以来これまで身につけた専門知識や技術の集大成として、学習の成果が卒業に値する実力を修得しているか評価するために、研究発表または実技の披露を行います。	2後	60	4		○	○								○	
43		○	業界研修	業界現場である各種動物施設で、実際の仕事を体験し、自己研鑽を行います。	随時	180	12		○			○						○	○
44		○	特別講義&見学	業界で活躍中のプロの方々から豊富な知識・情報を頂く特別授業や施設見学を行います。	随時	30	2		○			○						○	○
45		○	選択科目	業界でより活躍するための、専門知識・技術を幅広く学ぶ。	随時	60	4		○			○						○	

46	○	グローバルコミュニケーション	リスニング・リーディング・スピーキング・ライティングの4技能を総合的に学び、日常生活において平易な会話ができるようになる。	随時	480	3 2	○	○	○										
47	○	海外実学研修	グローバル化する現代社会で活躍するために、国際性を身につけるための国際教育です。	随時	60	4	○		○										
48	○	海外専門留学	10週間オーストラリアに留学し、さらなる専門知識や技術を修得すると共に、国際人としての語学力と感性を身に付ける事を目的に実施します。	随時	450	3 0	○		○										
49	○	イベント運営	学習成果の発表の場としてのイベントを行い、習得した専門知識や技術を実践する。	随時	30	2	○		○	○									
50	○	特別課外活動	学友会活動やクラブ活動を通して、チームワークや企画、運営力を養います。	随時	30	2	○		○		○								
51	○	ボランティア活動	市民社会の形成に貢献するために、ボランティア活動を行います。	随時	30	2	○			○	○								
52	○	資格取得講座	各専攻で学んだ専門知識や技術の、さらなるレベルアップを図るために、検定試験に挑戦し資格取得を目指します。	随時	30	2	○		○										
53	○	内定者研修	就職内定者を対象に、現場力を身につけるために実践的な研修を行ない、卒業時には即戦力として活躍できるようになる。	随時	90	6	○			○									
54	○	特別研究課題	就職内定者を対象に、就職先よりレベルの高い研究課題をいただき、この課題に取り組むことにより実力がつき、これまで身につけた専門知識を総合的に発揮できるようになる。	随時	180	1 2	○			○									
55	○	卒業企業課題	就職内定者を対象に、就職先より企業課題をいただき、この課題に取り組むことにより実力がつき、これまで身につけた専門知識を総合的に発揮できるようになる。	随時	180	1 2	○			○									
合計				55	科目			3,930 単位時間											

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：（単位時間を単位に換算し）各年次60単位以上取得し、2年間で120単位以上取得する。これを踏まえ、卒業認定会議で卒業認定されること。		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 選択必修科目と自由選択科目を履修し、各科目66,7%以上の出席し試験等による60点以上の評定で単位取得する。		1 学期の授業期間	15 週

（留意事項）

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地																														
福岡ECO動物海洋専門学校		平成16年2月23日	谷川 浩史	〒 812-0033 (住所) 福岡県福岡市博多区大博町4-16 (電話) 092-262-2177																														
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地																														
学校法人滋慶学園		昭和58年12月23日	浮舟 邦彦	〒 134-0084 (住所) 東京都江戸川区東葛西6-16-2 (電話) 03-5878-3311, 03-6808-3201																														
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																													
文化・教養	文化・教養専門課程	エコ・コミュニケーション科 (総合ペットショップ専攻)	平成17(2005)年度	-	平成26(2014)年度																													
学科の目的	「職業人教育を通して社会に貢献していく」ことを使命とし、動物・海洋・自然の仕事を通して、人に喜びと感動を与え、動物業界での即戦力となる人材を養成する。																																	
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格等)	主な教育内容: 犬・小動物・魚類までペット業界で活躍するための技術やスキルを学ぶ。 取得可能な資格: ・生物分類技能検定3級、4級・愛玩動物飼養管理士2級・ECOアニマルコーディネーター検定・JESC認定コミュニケーションスキルアップ検定																																	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																											
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,800 単位時間 — 単位	720 単位時間 — 単位	2,910 単位時間 — 単位	0 単位時間 — 単位	0 単位時間 — 単位	0 単位時間 — 単位																										
	生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率																													
40 人の内数	14 人	0 人	0 %	11.0 %																														
就職等の状況	■卒業者数(C) : 20 人 ■就職希望者数(D) : 18 人 ■就職者数(E) : 16 人 ■地元就職者数(F) : 4 人 ■就職率(E/D) : 89 % ■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 25 % ■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 80 % ■進学者数 : 0 人 ■その他 : (令和 6 年度卒業者にに関する令和7年5月1日時点の情報) ■主な就職先、業界等 アニマルカフェ、総合ペットショップ、他																																	
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL																																	
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.eco.ac.jp">https://www.eco.ac.jp</a>																																	
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>総授業時数</td><td>3,630 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>1,440 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>1,800 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>450 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>180 単位時間</td></tr> </table> (B: 単位数による算定) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>総単位数</td><td>— 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数</td><td>— 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の単位数</td><td>— 単位</td></tr> <tr><td>うち必修単位数</td><td>— 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数</td><td>— 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の単位数</td><td>— 単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)</td><td>— 単位</td></tr> </table>						総授業時数	3,630 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	1,440 単位時間	うち必修授業時数	1,800 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	450 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	180 単位時間	総単位数	— 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	— 単位	うち企業等と連携した演習の単位数	— 単位	うち必修単位数	— 単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	— 単位	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	— 単位	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	— 単位
総授業時数	3,630 単位時間																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																	
うち企業等と連携した演習の授業時数	1,440 単位時間																																	
うち必修授業時数	1,800 単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	450 単位時間																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	180 単位時間																																	
総単位数	— 単位																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	— 単位																																	
うち企業等と連携した演習の単位数	— 単位																																	
うち必修単位数	— 単位																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	— 単位																																	
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	— 単位																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	— 単位																																	
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>1 人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1 人</td> </tr> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</td> <td>0 人</td> </tr> </table>						① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0 人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1 人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0 人	計	1 人	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数	0 人														
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0 人																																	
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1 人																																	
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人																																	
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人																																	
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0 人																																	
計	1 人																																	
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数	0 人																																	

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会においては、非常勤講師以外の業界関係者からの意見を、より詳細に教育内容に反映させることを基本方針とし、次のような取り組みを行っている。企業との連携について、学科の養成目的(学生が卒業時に身につけておくべき能力)実現に向け、学校の教職員と業界で活躍している兼任教員(非常勤講師)が、授業科目の開設や授業内容の改善を図るため、年2回の講師会議を開催している。また、学生の卒業年次においては、非常勤講師以外の業界関係者も招聘し、学生の卒業研究内容を評価してもらい取り組みも行っている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程については、学校関係者評価委員会の意見も踏まえ、毎年5月に開催する教育課程編成委員会において改訂内容を審議し、その内容を踏まえ年末までに学校長が来年度の教育課程の編成方針を決定する。この方針に基づき、教務部長が中心となり、この編成方針を教職員、講師の先生方にも徹底し、各教科のシラバスを作成している。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
佐藤 良治	(株)福岡動物医療センターグループ	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	③
岩田 知彦	(株)海の中道海洋生態科学館	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	②
坂本 恵理	株式会社コミュニティサービス	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	③
山口 響	株式会社AHB	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	③
増山 崇	ひばるペットクリニック	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	①
妹尾 大輔	カミハタ養魚グループ／神畑養魚株式会社	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	③
谷川 浩史	福岡ECO動物海洋専門学校	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	—
満原 翔一	福岡ECO動物海洋専門学校	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	—
生野 祐二	福岡ECO動物海洋専門学校	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	—
村上 弘志	福岡ECO動物海洋専門学校	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	—
林田 新太郎	福岡ECO動物海洋専門学校	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(5月、1月)

(開催日時(実績))

第1回 令和7年5月14日 15:10～16:00

第2回 令和8年1月中旬 実施予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

社会では動物園や水族館だけではなく、家畜動物、愛玩動物への「アニマルウェルフェア」意識がかなり高まっているため、教育の質をあげることは、要は各授業において現状の飼育管理方法から「これからのペットショップやアニマルカフェ等」を意識した授業へと変えていく。また、ただ受け身の授業ではなく、学生個々が自分の意見を言えるよう、アクティブラーニング的授業へのシフトしていく必要がある。また、AIやDX化のすさまじい発展により、それらを活用できる人財育成として、「デジタルコンテンツ」の授業にも力を入れていく。しかし、デジタルに目を向けすぎることなく、動物の飼育はあくまでもアナログが基本であることを忘れず、当たり前の隅々まで丁寧な掃除、飼育管理者同士の円滑なコミュニケーション能力向上についても、演習を通して成長する機会を多く作る必要がある。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針  
 本校は、即戦力としての職業人教育を行う為、業界と連携し、専門知識・技術、並びに人間力を持ち合わせた人材の育成に取り組んでおり、特に演習科目においては、現場の第一線で活躍するプロに非常勤講師を依頼するなど、授業内容を業界関係者と共に企画立案・実施し、達成度評価を行うことを基本方針とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容  
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記  
 連携企業等と講師業務委託契約を交わした上で、現場の第一線のプロが非常勤講師として授業を行っている。学校と非常勤講師が協議して作成したシラバスを基に授業は進行され、成績評価は毎授業での到達目標達成度及び学期ごとに行う定期試験の結果をもって総合的に評価される。また、担当非常勤講師と学科専任教員は常に連携を密にし、情報を共有しながら授業運営に係る問題解決や授業改善に協力して取り組んでいる。更に、業界研修等を実施し、企業等の指導担当者下、現場体験を深め即戦力としての更なる知識・技術の習得に努めている。研修実施前の協議を徹底すると共に、教員による研修先の訪問を通して指導担当者と教員の連携・情報共有を図り、協力体制を強化して教育効果の向上に努めている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
ショップ経営理論	1.【校内】企業等からの講師が全て授業を主担当	ペットショップにおける運営、経営、流通、集客、マーケティングに関するマネジメントの理論を学ぶ。	有限会社セレーノ・コーポレーション
アニマルベーシック	1.【校内】企業等からの講師が全て授業を主担当	動物業界の仕事に携わるために必要な知識を学ぶ上で、その基礎となる細胞・遺伝子・体の機能を学び、説明できるようになる。	有限会社上妻商会
ホスピタリティ	1.【校内】企業等からの講師が全て授業を主担当	ホスピタリティの基本を理解し、実践することができるようになる。	有限会社セレーノ・コーポレーション
観賞魚研究Ⅰ	1.【校内】企業等からの講師が全て授業を主担当	淡水に生息する生物を飼育する上で必要な、水質管理および浄化システムについて講義形式で学び、水槽管理ができるようになる。	aqua shop D-aquarium
水生生物飼育管理Ⅱ	1.【校内】企業等からの講師が全て授業を主担当	実際に海水水槽の管理をグループで行い、管理に付随してくる事柄に関して演習形式で身につける。	サカナヤデザイン

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針  
 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記  
 学園の定める教職員規定において、専門技術・知識の向上、授業内容・教育技法の改善、クラス運営力の向上、マネジメント能力や指導力の向上などを研修の目的として、職歴や能力・経験、職責、担当業務に合わせて、定期的・継続的に業界と連携して研修を実施している。企業・業界団体等が開催する研修会や講師をお招きしての講習会、セミナーに専任教員を計画的に参加させ、業界の変化やニーズを的確に把握すると共に、最新の技術・知識の習得に努めている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	ペットショップ施設見学	連携企業等:	ひごペットフレンドリー
期間:	2024年6月13日	対象:	ドッグ系職員
内容:	ペットショップの店舗ごとの違いを知る。また展示方法や取り扱う商品から販売・接客を学ぶ		
研修名:	産業動物のアニマルウェルフェア(AW)	連携企業等:	KOAZAK
期間:	2024年7月9日	対象:	ドッグ系職員
内容:	AWの歴史から、その必要性、5つのFreedomについて学ぶ		
研修名:	特殊犬訓練士によるドッグトレーニング	連携企業等:	クレイグ・マレー氏
期間:	2024年7月21日、22日	対象:	ドッグ系職員
内容:	海外における犬とのコミュニケーション及びトレーニング技術について		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	FDマイクロレベル<クラスマネジメント>研修Ⅰ	連携企業等:	滋慶教育科学研究所
期間:	2024年5月24日	対象:	全学科教員
内容:	滋慶学園における担任の「クラスマネジメント」の定義に共感しクラスマネジメントのポイントを理解し、「実行計画」の作成、修正が出来るようになる。ひとりで「クラス」をささえるのではなく、学生のセーフティーネットが構築できる。		
研修名:	FDマイクロレベル<クラスマネジメント>研修Ⅱ	連携企業等:	滋慶教育科学研究所
期間:	2024年7月24日	対象:	全学科教員
内容:	滋慶学園における担任の「クラスマネジメント」の定義に共感、クラスマネジメントのポイントを理解し、「クラス」をひとりで支えることなく、学生のセーフティーネットの運用のため「実行計画」作成、実践、修正ができるようになる。		
研修名:	教職員カウンセリング研修	連携企業等:	滋慶教育科学研究所
期間:	2024年9月27日	対象:	全学科教員
内容:	滋慶学園グループの全教職員がカウンセリングマインドを身につけ、学生や保護者に対応できるようにスキル向上を目指し資格を取得する。		

(3) 研修等の計画	
① 専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: ペットショップ企業プロジェクト	連携企業等: ひごペットフレンドリー
期間: 2025年9月1日	対象: 動物飼育系職員
内容: ペットショップにおける現状から課題を見つけ出し解決する方法を学ぶ	
研修名: 生成AIリスニング研修	連携企業等: BSC教育ソリューション
期間: 2025年7月29日～8月1日	対象: 飼育系職員
内容: 生成AIを業務等に活かし新しいスキルや知識を学びなおす研修プログラム	
研修名: 卒業生合同企業説明会(動物飼育系)	連携企業等: 各動物園、動物関連施設
期間: 2025年12月1日	対象: 飼育系職員
内容: 動物現場で働いている卒業生による各企業の説明会。求められる人物像等についての話。	
② 指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: 教務勉強会(事例検討会)	連携企業等: 滋慶トータルサポートセンター
期間: 2025年3月26日、8月21日	対象: 全学科教員
内容: 多様化している学生・生徒に対応することや、サポートが必要な学生に対し今後どのようにサポートしていけば良いか等、実際の事例報告を行い勉強会を実施。クラスマネジメント力の向上を目的とする。	
研修名: FDミドルレベル研修	連携企業等: 滋慶教育科学研究所
期間: 2025年7月24日	対象: 全学科教員
内容: FD研修の目的とその展開を理解し、自学科のスタッフの成長を促進出来る。カリキュラムマネジメントの基礎を学び、自学科のカリキュラム開発の課題発見が出来る。	
研修名: マネジメント研修	連携企業等: 滋慶教育科学研究所
期間: 2025年10月21日	対象: 全学科教員
内容: 学校運営に関する必要な知識の習得並びに、姉妹校の成功事例を学ぶことで、新たな視点で自校の学校運営を考え、在校生・卒業生・教員・講師並びに動物業界にとって、より良い学校になるように反映させる。	
4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係	
(1) 学校関係者評価の基本方針	
自己点検・評価結果について学校職員以外の関係者による評価を行うため、学校関係者評価委員会を置き、年に1回以上委員会を開催する。評価委員会は、本校教職員が行った自己点検・自己評価の内容を審議・評価することを通じて、学校運営の改善に活かすことを目的とする。評価委員は、卒業生1名、保護者代表1名、近隣関係者1名、高校関係者1名並びに動物業界関係者6名の合計10名の委員定数で構成され、任期は1年である。毎年5月に開催している。	
(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生募集と受け入れ
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献
(11) 国際交流	海外提携校との交流
※(10)及び(11)については任意記載。	

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

(継続的な取り組み(これまでの学校評価を踏まえ継続的に実施している内容))

- ・学生の満足度を判断する材料の一つとして定期的に授業アンケートを実施し、その内容を踏まえ、講師会で伝え改善に努めている。また職員の研修を強化し授業づくり、クラス作りに繋げている。また必要に応じて授業アシスタントを配置しサポート体制を強化している。
- ・学生が心の悩み等で不登校や中途退学になり、修学を断念することが無いよう、学生相談窓口を徒歩3分の場所に設置し専属のカウンセラーを常駐し、心を支える取り組みをしている。
- ・卒業教育及び再就職サポートとして対面による面談のみならず、オンラインや電話を含む相談窓口を用意し実践している。

(昨年度の評価で指摘された事項で、留意して取り組んでいく事項)

- ・国家試験の合格率の向上に関して取り組まれているが、さらに授業面や学生サポートに関しても力を入れてほしい。
  - ・多様化している学生に対して、スタッフは対応が難しい部分もあるだろうが学生満足度向上のため、支援体制は継続してほしい。
  - ・犯罪から身を守る対策や事故や災害に対する危機意識をしっかりと伝えてほしい。
  - ・具体的な評価をするために数値化したデータがほしい。
- などの多くの意見をいただいた。

これらの意見を踏まえ、各部門で改善できる内容については、事務局長・教務部長・各学科長で協議し、更に教務会議及び全体会議等でこれらの意見をスタッフ全員で共有し、具体的な対策を検討しその実現を図っている。  
教育内容については、毎年5月ごろに開催する教育課程編成委員会に評価委員会の意見を示し、その審議を踏まえ、年末までに学校長が来年度の教育課程の編成方針を決定する。この方針に基づき、教務部長と学科長が中心となり、この編成方針を教職員、講師の先生方にも徹底し、各教科のシラバスを作成している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
佐藤 良治	(株)福岡動物医療センターグループ	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	業界委員
岩田 知彦	(株)海の中道海洋生態科学館	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	業界委員
坂本 恵理	株式会社コミュニティサービス	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	業界委員
山本 雅一	合同会社ZOO CARAVAN	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	業界委員
山口 響	株式会社AHB	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	業界委員
増山 崇	ひばるペットクリニック	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	業界委員
田中 飛翔	動物園・動物飼育3年 田中ひなた保護者	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	保護者
鶴澤 拓哉	エコ・コミュニケーション科 動物園公務員専攻卒業	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	卒業生
戎崎 淳一	福岡市大浜公民館	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	近隣代表
末吉 薫	福岡県立嘉穂総合高等学校	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	高校関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://www.eco.ac.jp/>

公表時期: 2025年7月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校が毎年定める事業計画の実行方針において提起された目標を具体化するために、動物業界の企業等からヒアリングを行い、動物業界の動きを踏まえた実行計画を作成しています。企業等への具体的な情報提供方法として、業界関係者である兼任教員と教職員との間で講師会議を開催し、授業科目編成や各科目のシラバス等を審議を行い、そこで出たご意見を反映させることを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の概要、事業計画、事業報告
(2)各学科等の教育	カリキュラム、学年歴、実習要項、シラバス
(3)教職員	教職員の氏名、略歴等の紹介
(4)キャリア教育・実践的職業教育	カリキュラム、学年歴、実習要項、シラバス
(5)様々な教育活動・教育環境	学校設備紹介等
(6)学生の生活支援	学校相談センターの案内、奨学金申込み案内等
(7)学生納付金・修学支援	授業料及びその他実習費
(8)学校の財務	事業計画、事業報告
(9)学校評価	自己点検、自己評価結果、学校関係者評価結果
(10)国際連携の状況	海外提携校との交流
(11)その他	社会貢献(地域社会と連携した行事)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ 広報誌等の刊行物・その他( ))  
URL: <https://www.eco.ac.jp/>  
公表時期: 2025年7月31日

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 エコ・コミュニケーション科 (総合ペットショップ専攻))															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		キャリアプランニングI	キャリア教育の一環として、クラスメイト・担任とのコミュニケーションを図り、社会人となる心構えやホスピタリティを理解し、実践できるようになる。	1前後	60	4	○			○		○		
2	○		キャリアプランニングII	将来のキャリア設計を行うと共に、社会人として必要な社会常識や気構え・身構え・心構えなどを発揮できるようになる。	2前後	60	4	○			○		○		
3	○		プレゼンテーション	人前で話ができるよう自己表現力(人前での話し方)を養い、考えを伝えることができるようになる。	2前後	60	4		○		○			○	
4	○		コミュニケーションスキルアップ	良識のある社会人になるために、必要なコミュニケーションを身につけ、就職活動を優位に進めることができるようになる。	1前後	60	4		○		○			○	○
5	○		ホスピタリティ	ホスピタリティの基本を理解し、実践することができるようになる。	2前後	60	4		○		○			○	○
6	○		キャリアサポートアップ	履歴書、面接など就職活動に必須となるスキルについて、就職担当者より学び、実践できるようになる。	随時	30	2		○		○			○	○
7	○		社会人基礎力	職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力を学び、自らのキャリアを切り開いていく能力を身に付ける。	随時	30	2		○		○			○	
8	○		コンピュータ演習	ワード・エクセル・パワーポイントなどの基本的な使い方を学び応用・作成ができるようになる。	1前後	60	4		○		○			○	
9	○		デジタルコンテンツ	動画や写真などを撮影、編集し、HPやSNSで情報の発信や収集ができる技術を習得する。	2前後	60	4		○		○			○	○
10	○		アニマルベシック	動物業界の仕事に携わるために必要な知識を学ぶ上で、その基礎となる細胞、遺伝子、体の機能を学び、説明できるようになる。	随時	15	1	○			○			○	○
11	○		動物の体のしくみ	犬や猫、小動物を中心とした基本的な動物の体の構造骨格や生理的な知識を学び、説明ができるようになる。	随時	15	1	○			○			○	
12	○		動物の健康管理	動物を飼育するための飼育管理方法や、病気やその予防法を学び説明できるようになる。	随時	15	1	○			○			○	
13	○		アニマルヒストリー	民族や宗教、歴史等の観点から人と動物の関わりに関して考え説明できるようになる。	随時	15	1	○			○			○	
14	○		次世代のための環境教育	体験型学習の指導法理論(人の理解・自然と暮らす文化)に基づき、環境教育の基礎を学び、伝えることができるようになる。	2前後	60	4	○			○			○	○
15	○		コンパニオンドッグ	JKCに登録されている犬種を中心に、歴史から犬体、犬種の特徴などを学ぶ。	1前後	60	4	○			○			○	



35	○	グローバルコミュニケーション	リスニング・リーディング・スピーキング・ライティングの4技能を総合的に学び、日常生活について平易な会話ができるようになる。	随時	480	32	○	○	○				
36	○	海外実学研修	グローバル化する現代社会で活躍するために、国際性を身につけるための国際教育です。	1前後	60	4	○		○		○	○	
37	○	海外専門留学	10週間のオーストラリアに留学し、更なる専門知識や技術を習得すると共に、国際人としての語学力と感性を身に付ける事を目的に実施しています。	随時	450	30	○			○		○	○
38	○	イベント運営	学習成果の発表の場としてのイベントを行い、習得した専門知識や技術を実践します。	随時	30	2	○			○	○		
39	○	特別課外活動	学友会活動やクラブ活動を通して、チームワークや企画、運営力を養います。	随時	30	2	○		○		○		
40	○	ボランティア活動	市民社会の形成に貢献するために、ボランティア活動を行います。	随時	30	2	○			○	○		
41	○	資格取得講座	各専攻で学んだ専門知識や技術の、さらなるレベルアップを図るために、検定試験に挑戦し資格取得を目指します。	随時	30	2	○		○			○	
42	○	内定者研修	就職内定者を対象に、現場力を身につけるために実践的な研修を行ない、卒業時には即戦力として活躍できるようになる。	随時	90	6	○			○		○	○
43	○	特別研究課題	就職内定者を対象に、就職先よりレベルの高い研究課題をいただき、この課題に取り組むことにより実力がつき、これまで身につけた専門知識を総合的に発揮できるようになる。	随時	180	12	○			○		○	○
44	○	卒業企業課題	就職内定者を対象に、就職先より企業課題をいただき、この課題に取り組むことにより実力がつき、これまで身につけた専門知識を総合的に発揮できるようになる。	随時	180	12	○			○		○	○
合計					44 科目		3,630 単位時間						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： (単位時間を単位に換算し) 各年次60単位以上取得し、2年間で120単位以上取得する。これを踏まえ、卒業認定会議で卒業認定されること。		1学年の学期区分	2期
履修方法： 選択必修科目と自由選択科目を履修し、各科目66,7%以上の出席し試験等による60点以上の評定で単位取得する。		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地				
福岡ECO動物海洋専門学校		平成16年2月23日	谷川 浩史	〒 812-0033 (住所) 福岡県福岡市博多区大博町4-16 (電話) 092-262-2177				
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人滋慶学園		昭和58年12月23日	浮舟 邦彦	〒 134-0084 (住所) 東京都江戸川区東葛西6-16-2 (電話) 03-5878-3311, 03-6808-3201				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
文化・教養	文化・教養専門課程	エコ・コミュニケーション科(ドルフントレーナー専攻)	平成17(2005)年度	-	平成26(2014)年度			
学科の目的	「職業人教育を通して社会に貢献していく」ことを使命とし、動物・海洋・自然の仕事を通して、人に喜びと感動を与え、動物業界での即戦力となる人材を養成する。							
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格等)	主な教育内容: イルカを通して感動と海の大切さを伝えられるトレーナーの技術とスキルを学ぶ。 取得可能な資格: 一級小型船舶操縦士・二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶・PACI検定・PADIオープンウォーターカード・潜水士・JESC認定コミュニケーションスキルアップ検定・販売士検定3級・販売士検定4級・生物分類技能検定3級・生物分類技能検定4級・愛玩動物飼養管理士2級							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,800 単位時間	900 単位時間	2,880 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			— 単位	— 単位	— 単位	— 単位	— 単位	— 単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率				
40 人の内数	21 人	0 人	0 %	10.0 %				
就職等の状況	■卒業者数(C)		24 人					
	■就職希望者数(D)		24 人					
	■就職者数(E)		23 人					
	■地元就職者数(F)		5 人					
	■就職率(E/D)		96 %					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		22 %					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		96 %					
	■進学者数		0 人					
	■その他							
	(令和 6 年度卒業者に関する令和 7 年 5 月 1 日時点の情報)							
■主な就職先、業界等		水族館、総合ペットショップ、海洋レジャー施設、他						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載		無					
当該学科のホームページURL	https://www.eco.ac.jp							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)							
	総授業時数		3,780 単位時間					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間						
うち企業等と連携した演習の授業時数		1,470 単位時間						
うち必修授業時数		1,800 単位時間						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間						
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		390 単位時間						
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		180 単位時間						
(B: 単位数による算定)								
総単位数		— 単位						
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		— 単位						
うち企業等と連携した演習の単位数		— 単位						
うち必修単位数		— 単位						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		— 単位						
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		— 単位						
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		— 単位						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		0 人					
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		1 人					
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0 人					
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0 人					
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0 人					
	計		1 人					
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		0 人						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会においては、非常勤講師以外の業界関係者からの意見を、より詳細に教育内容に反映させることを基本方針とし、次のような取り組みを行っている。企業との連携について、学科の養成目的(学生が卒業時に身につけておくべき能力)実現に向け、学校の教職員と業界で活躍している兼任教員(非常勤講師)が、授業科目の開設や授業内容の改善を図るため、年2回の講師会議を開催している。また、学生の卒業年次においては、非常勤講師以外の業界関係者も招聘し、学生の卒業研究内容を評価してもらい取り組みも行っている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程については、学校関係者評価委員会の意見も踏まえ、毎年5月に開催する教育課程編成委員会において改訂内容を審議し、その内容を踏まえ年末までに学校長が来年度の教育課程の編成方針を決定する。この方針に基づき、教務部長が中心となり、この編成方針を教職員、講師の先生方にも徹底し、各教科のシラバスを作成している。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
佐藤 良治	(株)福岡動物医療センターグループ	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	③
岩田 知彦	(株)海の中道海洋生態科学館	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	②
坂本 恵理	株式会社コミュニティサービス	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	③
山本 雅一	合同会社ZOO CARAVAN	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	③
山口 響	株式会社AHB	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	③
増山 崇	ひばるペットクリニック	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	①
妹尾 大輔	カミハタ養魚グループ／神畑養魚株式会社	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	③
谷川 浩史	福岡ECO動物海洋専門学校	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	—
生野 祐二	福岡ECO動物海洋専門学校	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	—
村上 弘志	福岡ECO動物海洋専門学校	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	—
林田 新太郎	福岡ECO動物海洋専門学校	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(5月、1月)

(開催日時(実績))

第1回 令和7年5月14日 15:10～16:00

第2回 令和8年1月中旬 実施予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

動物福祉に対する正しい考え方を持つ職員が不足していると感じている。また、世間においても展示動物のペット化に近い感覚で見られる方が多い。本来伝えたい動物のこと、自然のことなどが希薄になってしまっている。その点を踏まえて学校でも伝えて欲しい、というご意見をもとに「水族館概論」の授業で展示動物の本来の目的についても伝えていく。そして学生にはトレーニングやパフォーマンス、海洋生物や海洋環境についての専門分野だけでなく、多角的な面からインプットさせる機会を与え、広い視野を持ち学んだことをアウトプットする機会も創出して欲しいというご意見より、産学連携でのイベントや校外実習等を活用し「人に伝える」アウトプットの機会を設けていく。また、社会人の基礎となる「人間力の向上」などを念頭に授業内容・方法の改善を図り、授業以外の実習指導、生活指導、就職指導等あらゆる機会をとらえて、キャリア教育の充実に向けた検討・環境整備に取り組んでいる。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針  
 本校は、即戦力としての職業人教育を行う為、業界と連携し、専門知識・技術、並びに人間力を持ち合わせた人材の育成に取り組んでおり、特に演習科目においては、現場の第一線で活躍するプロに非常勤講師を依頼するなど、授業内容を業界関係者と共に企画立案・実施し、達成度評価を行うことを基本方針とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容  
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記  
 連携企業等と講師業務委託契約を交わした上で、現場の第一線のプロが非常勤講師として授業を行っている。学校と非常勤講師が協議して作成したシラバスを基に授業は進行され、成績評価は毎授業での到達目標達成度及び学期ごとに行う定期試験の結果をもって総合的に評価される。また、担当非常勤講師と学科専任教員は常に連携を密にし、情報を共有しながら授業運営に係る問題解決や授業改善に協力して取り組んでいる。更に、業界研修等を実施し、企業等の指導担当者下、現場体験を深め即戦力としての更なる知識・技術の習得に努めている。研修実施前の協議を徹底すると共に、教員による研修先の訪問を通して指導担当者と教員の連携・情報共有を図り、協力体制を強化して教育効果の向上に努めている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
水族館総合演習	1.【校内】企業等からの講師が全て授業を主担当	水族館の役割、歴史や飼育業務について学び、これからの水族館について考え、伝えることができるようになる。	(株)海の中道海洋生態科学館
海洋自然観察概論	1.【校内】企業等からの講師が全て授業を主担当	海洋生物をテーマとし環境教育やガイドについて学びインタープリターとして必要な知識を身に付け伝えることができるようになる。	NPO法人 PACI
ダイビング演習	3.【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	PADIダイビングライセンス取得を目指します。限定的な範囲の水中を対象に、水中の生物観察・調査が安全に行える潜水・潜行技術を身に付けることができるようになる。	有限会社 ジェイ・ケイDIVE ESUCH
潜水士対策講座	3.【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	国家資格「潜水士」の合格できるようになる。	有限会社 ジェイ・ケイDIVE ESUCH
船舶免許対策講座2級・特殊	3.【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	広い水域での生物探査・観察ができるようになるために必要な動力船に対する知識を学び小型船舶操縦士2級免許取得をする。	株式会社 ボート免許センター

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針  
 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記  
 学園の定める教職員規定において、専門技術・知識の向上、授業内容・教育技法の改善、クラス運営力の向上、マネジメント能力や指導力の向上などを研修の目的として、職歴や能力・経験、職責、担当業務に合わせて、定期的・継続的に業界と連携して研修を実施している。企業・業界団体等が開催する研修会や講師をお招きしての講習会、セミナーに専任教員を計画的に参加させ、業界の変化やニーズを的確に把握すると共に、最新の技術・知識の習得に努めている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	NPO法人 砂浜美術館の活動について	連携企業等:	砂浜美術館
期間:	2024年7月1日	対象:	エコ・コミュニケーション科教員
内容:	砂浜を美術館として扱う本施設において実施しているイベントと運営方法		
研修名:	イルカのトレーニング、健康管理について	連携企業等:	つくみイルカ島
期間:	2024年7月12日	対象:	エコ・コミュニケーション科教員
内容:	つくみイルカ島でのイルカのトレーニング健康管理の方法について		
研修名:	行動分析学を用いたトレーニングについて	連携企業等:	いおワールドかごしま水族館
期間:	2024年12月16日	対象:	エコ・コミュニケーション科教員
内容:	行動分析学と教育及び研究の観点からのトレーニング		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	FDマイクロレベル<クラスマネジメント>研修Ⅰ	連携企業等:	滋慶教育科学研究所
期間:	2024年5月24日	対象:	全学科教員
内容:	滋慶学園における担任の「クラスマネジメント」の定義に共感しクラスマネジメントのポイントを理解し、「実行計画」の作成、修正が出来るようになる。ひとりで「クラス」をささえるのではなく、学生のセーフティーネットが構築できる。		
研修名:	FDマイクロレベル<クラスマネジメント>研修Ⅱ	連携企業等:	滋慶教育科学研究所
期間:	2024年7月24日	対象:	全学科教員
内容:	滋慶学園における担任の「クラスマネジメント」の定義に共感、クラスマネジメントのポイントを理解し、「クラス」をひとりで支えることなく、学生のセーフティーネットの運用のため「実行計画」作成、実践、修正ができるようになる。		
研修名:	教職員カウンセリング研修	連携企業等:	滋慶教育科学研究所
期間:	2024年9月27日	対象:	全学科教員
内容:	滋慶学園グループの全教職員がカウンセリングマインドを身につけ、学生や保護者に対応できるようにスキル向上を目指し資格を取得する。		

<b>(3) 研修等の計画</b>	
<b>① 専攻分野における実務に関する研修等</b>	
研修名: 人間がもたらす海洋汚染について	連携企業等: もじ少年自然の家
期間: 2025年5月24日	対象: エコ・コミュニケーション科教員
内容 周防灘のビーチクリーンを実施し、現在の海洋環境について知る	
研修名: 生簀飼育におけるイルカの健康管理について	連携企業等: (株)マリーンパレス
期間: 2025年7月1日	対象: エコ・コミュニケーション科教員
内容 つくみイルカ島でのイルカの健康管理の方法について	
研修名: うみたまごにおける鱧脚類の繁殖について	連携企業等: (株)マリーンパレス
期間: 2025年7月2日	対象: エコ・コミュニケーション科教員
内容 セイウチの計画繁殖及びブリーディングローンについて	
<b>② 指導力の修得・向上のための研修等</b>	
研修名: 教務勉強会(事例検討会)	連携企業等: 滋慶トータルサポートセンター
期間: 2025年3月26日、8月21日	対象: 全学科教員
内容 多様化している学生・生徒に対応することや、サポートが必要な学生に対し今後どのようにサポートしていけば良いか等、実際の事例報告を行い勉強会を実施。クラスマネジメント力の向上を目的とする。	
研修名: FDミドルレベル研修	連携企業等: 滋慶教育科学研究所
期間: 2025年7月24日	対象: 全学科教員
内容 FD研修の目的とその展開を理解し、自学科のスタッフの成長を促進出来る。カリキュラムマネジメントの基礎を学び、自学科のカリキュラム開発の課題発見が出来る。	
研修名: マネジメント研修	連携企業等: 滋慶教育科学研究所
期間: 2025年10月21日	対象: 全学科教員
内容 学校運営に関する必要な知識の習得並びに、姉妹校の成功事例を学ぶことで、新たな視点で自校の学校運営を考え、在校生・卒業生・教員・講師並びに動物業界にとって、より良い学校になるように反映させる。	
4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係	
<b>(1) 学校関係者評価の基本方針</b>	
自己点検・評価結果について学校職員以外の関係者による評価を行うため、学校関係者評価委員会を置き、年に1回以上委員会を開催する。評価委員会は、本校教職員が行った自己点検・自己評価の内容を審議・評価することを通じて、学校運営の改善に活かすことを目的とする。評価委員は、卒業生1名、保護者代表1名、近隣関係者1名、高校関係者1名並びに動物業界関係者6名の合計10名の委員定数で構成され、任期は1年である。毎年5月に開催している。	
<b>(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応</b>	
<b>ガイドラインの評価項目</b>	<b>学校が設定する評価項目</b>
(1) 教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生募集と受け入れ
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献
(11) 国際交流	海外提携校との交流
※(10)及び(11)については任意記載。	

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

(継続的な取り組み(これまでの学校評価を踏まえ継続的に実施している内容))

- ・学生の満足度を判断する材料の一つとして定期的に授業アンケートを実施し、その内容を踏まえ、講師会で伝え改善に努めている。また職員の研修を強化し授業づくり、クラス作りに繋げている。また必要に応じて授業アシスタントを配置しサポート体制を強化している。
- ・学生が心の悩み等で不登校や中途退学になり、修学を断念することが無いよう、学生相談窓口を徒歩3分の場所に設置し専属のカウンセラーを常駐し、心を支える取り組みをしている。
- ・卒後教育及び再就職サポートとして対面による面談のみならず、オンラインや電話を含む相談窓口を用意し実践している。

(昨年度の評価で指摘された事項で、留意して取り組んでいく事項)

- ・国家試験の合格率の向上に関して取り組まれているが、さらに授業面や学生サポートに関しても力を入れてほしい。
  - ・多様化している学生に対して、スタッフは対応が難しい部分もあるだろうが学生満足度向上のため、支援体制は継続してほしい。
  - ・犯罪から身を守る対策や事故や災害に対する危機意識をしっかりと伝えてほしい。
  - ・具体的な評価をするために数値化したデータがほしい。
- などの多くの意見をいただいた。

これらの意見を踏まえ、各部門で改善できる内容については、事務局長・教務部長・各学科長で協議し、更に教務会議及び全体会議等でこれらの意見をスタッフ全員で共有し、具体的な対策を検討しその実現を図っている。  
教育内容については、毎年5月ごろに開催する教育課程編成委員会に評価委員会の意見を示し、その審議を踏まえ、年末までに学校長が来年度の教育課程の編成方針を決定する。この方針に基づき、教務部長と学科長が中心となり、この編成方針を教職員、講師の先生方にも徹底し、各教科のシラバスを作成している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
佐藤 良治	(株)福岡動物医療センターグループ	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	業界委員
岩田 知彦	(株)海の中道海洋生態科学館	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	業界委員
坂本 恵理	株式会社コミュニティサービス	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	業界委員
山本 雅一	合同会社ZOO CARAVAN	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	業界委員
山口 響	株式会社AHB	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	業界委員
増山 崇	ひばるペットクリニック	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	業界委員
田中 飛翔	動物園・動物飼育3年 田中ひなた保護者	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	保護者
鶴澤 拓哉	エコ・コミュニケーション科 動物園公務員専攻 卒業	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	卒業生
戎崎 淳一	福岡市大浜公民館	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	近隣代表
末吉 薫	福岡県立嘉穂総合高等学校	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	高校関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。  
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他( ))  
URL: <https://www.eco.ac.jp/>  
公表時期: 2025年7月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校が毎年定める事業計画の実行方針において提起された目標を具体化するために、動物業界の企業等からヒアリングを行い、動物業界の動きを踏まえた実行計画を作成しています。企業等への具体的な情報提供方法として、業界関係者である兼任教員と教職員との間で講師会議を開催し、授業科目編成や各科目のシラバス等を審議を行い、そこで出たご意見を反映させることを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の概要、事業計画、事業報告
(2)各学科等の教育	カリキュラム、学年歴、実習要項、シラバス
(3)教職員	教職員の氏名、略歴等の紹介
(4)キャリア教育・実践的職業教育	カリキュラム、学年歴、実習要項、シラバス
(5)様々な教育活動・教育環境	学校設備紹介等
(6)学生の生活支援	学校相談センターの案内、奨学金申込み案内等
(7)学生納付金・修学支援	授業料及びその他実習費
(8)学校の財務	事業計画、事業報告
(9)学校評価	自己点検、自己評価結果、学校関係者評価結果
(10)国際連携の状況	海外提携校との交流
(11)その他	社会貢献(地域社会と連携した行事)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ 広報誌等の刊行物・その他( ))  
URL: <https://www.eco.ac.jp/>  
公表時期: 2025年7月31日

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 エコ・コミュニケーション科 (ドルフィントレーナー専攻))																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○			キャリアプランニングⅠ	キャリア教育の一環として、クラスメイト・担任とのコミュニケーションを図り、社会人となる心構えやホスピタリティを理解し、実践できるようになる。	1前後	60	4	○			○	○			
	○			キャリアプランニングⅡ	将来のキャリア設計を行うと共に、社会人として必要な社会常識や気構え・身構え・心構えなどを発揮できるようになる。	2前後	60	4	○			○	○			
	○			プレゼンテーションⅠ	人前で話ができるよう自己表現力（人前での話し方）を養い、考えを伝えることができるようになる。	1前後	60	4		○		○			○	
	○			プレゼンテーションⅡ	就職活動に必要な面接技法や自己PRの仕方、電話応対など、実践的な自己表現力を養い、発揮できるようになる。	2前後	60	4		○		○			○	
	○			コミュニケーションスキルアップ	良識のある社会人になるために、必要なコミュニケーションを身につけ、就職活動を優位に進めることができるようになる。	1前後	60	4		○		○			○	
	○			ホスピタリティ	ホスピタリティの基本を理解し、実践することができるようになる。	随時	30	2		○		○			○	○
	○			キャリアサポートアップ	履歴書の作成、適正検査対策、作文・小論文対策を行い就職活動に臨むことができるようになる。	随時	30	2	○			○			○	
	○			社会人基礎力	ビジネスマンとして入職後に必要な基本的な立ち振る舞いを取捨し、実践することができるようになる。	随時	30	2	○			○			○	
	○			コンピュータ演習	ワード・エクセル・パワーポイントなどの基本的な使い方を学び応用・作成ができるようになる。	1前後	60	4		○		○			○	
	○			演出効果基礎	プログラムの構成上必要である音響・映像・照明における設備機器や演出効果などを知り、人に感動を与える手法の一つとして理解し活用できるようになる	2前後	60	4	○			○			○	○
	○			アニマルベーシック	動物を学ぶ上で、その基礎となる細胞、遺伝子、体の機能を学び、説明できるようになる。	随時	15	1	○			○			○	
	○			動物の体のしくみ	犬を中心とした基本的な動物の体の構造骨格や生理的な知識を学び、説明できるようになる。	随時	15	1	○			○			○	
	○			動物の健康管理	動物を飼育するための飼育管理方法、病気やその予防法を学び、説明できるようになる。	随時	15	1	○			○			○	
	○			アニマルヒストリー	コンパニオンアニマルとしてのルーツを探り、動物の歴史と人間の関わりなどを学び、説明できるようになる。	随時	15	1	○			○			○	
	○			次世代のための環境教育	人の理解・自然と暮らし文化に基づき、環境教育の基礎を学び、伝えることができるようになる。	1前後	60	4	○			○			○	○



34	○	潜水士対策講座	国家資格「潜水士」の合格を目指します。	随時	30	2	○		○			○	○
35	○	企業プロジェクト	それぞれのプロジェクトを理解し、企画立案、提案、実行を個人またはチーム活動として行い、成果を残すことができるようになる。	2前後	120	8		○	○			○	○
36	○	進級課題	学んだ専門知識や技術の集大成として、学習成果が進級に値する実力を修得しているか課題に取り組み、課題の研究発表または実技の披露を行います。	1後	60	4		○	○		○		
37	○	卒業課題	入学以来これまで身につけた専門知識や技術の集大成として、学習の成果が卒業に値する実力を修得しているか評価するために、研究発表または実技の披露を行います。	2後	60	4		○	○		○		
38	○	業界研修	業界現場である各種動物施設で、実際の仕事を体験し、自己研鑽を行います。	随時	180	6		○	○			○	○
39	○	特別講義 & 見学	業界で活躍中のプロの方々から豊富な知識・情報を頂く特別授業や施設見学を行います。	随時	30	2		○			○		○
40	○	選択科目	業界でより活躍するための、専門知識・技術を幅広く学ぶ。	随時	90	6		○			○		○
41	○	グローバルコミュニケーション	リスニング・リーディング・スピーキング・ライティングの4技能を総合的に学び、日常生活において平易な会話ができるようになる。	随時	480	32		○	○				○
42	○	海外実学研修	グローバル化する現代社会で活躍するために、国際性を身につけるための国際教育です。	1後	60	4		○	○				○
43	○	海外専門留学	10週間オーストラリアに留学し、さらなる専門知識や技術を修得すると共に、国際人としての語学力と感性を身に付ける事を目的に実施します。	随時	450	30		○			○		○
44	○	イベント運営	学習成果の発表の場としてのイベントを行い、習得した専門知識や技術を実践します。	随時	30	2		○			○		○
45	○	特別課外活動	学友会活動やクラブ活動を通して、チームワークや企画、運営力を養います。	随時	30	2		○			○		○
46	○	ボランティア活動	市民社会の形成に貢献するために、ボランティア活動を行います。	随時	30	2		○			○		○
47	○	資格取得講座	各専攻で学んだ専門知識や技術の、さらなるレベルアップを図るために、検定試験に挑戦し資格取得を目指します。	随時	30	2		○			○		○
48	○	内定者研修	就職内定者を対象に、現場力を身につけるために実践的な研修を行ない、卒業時には即戦力として活躍できるようになる。	随時	90	6		○			○		○
49	○	特別研究課題	就職内定者を対象に、就職先よりレベルの高い研究課題をいただき、この課題に取り組むことにより実力がつき、これまで身につけた専門知識を総合的に発揮できるようになる。	随時	180	12		○			○		○
50	○	卒業企業課題	就職内定者を対象に、就職先より企業課題をいただき、この課題に取り組むことにより実力がつき、これまで身につけた専門知識を総合的に発揮できるようになる。	随時	180	12		○			○		○
合計				50	科目		3,780 単位（単位時間）						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：（単位時間を単位に換算し）各年次60単位以上取得し、2年間で120単位以上取得する。これを踏まえ、卒業認定会議で卒業認定されること。		1学年の学期区分	2期
履修方法：選択必修科目と自由選択科目を履修し、各科目66,7%以上の出席し試験等による60点以上の評定で単位取得する。		1学期の授業期間	15週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。